

評価項目	評価	コメント
<p>1. 意識改革と組織体制の充実</p> <p>(1)借受希望者を訪問し営農計画を聴取する、集落に入り事業説明を行う、担い手農業者などと定期的に意見交換を行うなど機構から働きかけを行ったか。</p>	<p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>現地見学会の開催など色々と積極的に取り組んでおり、評価する。 引き続き、制度周知や現地でのマッチングが可能となる取組を充実・拡大すること。</p>
<p>(2)現地で取り組む職員(現地駐在員、集積コーディネーター)体制を充実させるとともに、研修などでスキルアップを図ることができたか。</p>	<p>A</p> <p>(B)</p> <p>C</p>	<p>市町村コーディネーター対象の研修会の開催など地味であるが人材育成に必要な取組である。地域においては、「書類作成の仕方がわからない」「動きが見えない」等の声も聞くことがあり、数値目標の達成に向け、今後ともしっかり取組を進めること。</p>
<p>2. 話し合いの促進による出し手の掘起</p> <p>(1)府・市町村と連携し、京力農場プランの作成・見直しの中で、農地をまとめて機構に預けるよう集落に対し働きかけるなど農地の出し手の掘起こしを行ったか。</p>	<p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>関係機関と連携して、京力農場プラン作成(集落カバー率50%越え)や農地中間管理事業の推進に向けた集落への説明会、連携協定に基づく土地改良事業団体連合会との連携した研修会など積極的な取組を評価する。 今後、機構関連事業などの実施に向け、関係機関との連携した取組を更に進めること。</p>
<p>3. 機構のPRと農地所有者への喚起</p> <p>(1)機構は知事が指定した公的機関であり、責任を持って農地を管理し、使用料は確実に支払うなど事業のメリットを農地所有者に訴える取組を行ったか。</p>	<p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>今年度新たに日刊紙への広告掲載を行い農地中間管理事業を広く啓発したこと、事業の先行事例集を作成・配布したことを評価する。 今後は、各農業委員会だよりへの掲載など、農業委員会とも連携した取組を進められたい。</p>
<p>4. 他事業・機関との連携</p> <p>(1)集落の状況を踏まえ、中間管理事業と農地耕作条件改善事業などを併せて実施するなど課題解決につながる提案をするため、他事業所管部局と連携して取り組むことができたか。</p>	<p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>連携協定に基づく取組が拡大しており、農業関係団体と連携した取組を更に進められたい。 府内の南北格差(南部担い手多く貸し手少ない、北部担い手少なく条件不利地域多い)の課題に対する相談窓口として、合併後新たに配置される現地推進役の活動に期待する</p>
<p>5. 30年度の取組み</p> <p>(1)29年度の取組み結果を踏まえた上で、30年度の取組み方針を策定することができたか。</p>	<p>(A)</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>現地現場主義が重要であり、現地推進役の配置によって現場体制の増員を評価する。本年7月に機構が農業会議と合併し、国費・府費の新規事業を含め事業推進体制が充実することを期待する。特に、ピラミッド型の体制を構築し、事業推進の活動を充実すること。</p>
<p>総合評価</p>	<p>A</p> <p>(B)</p> <p>C</p>	<p>組織体制の充実、制度改善等に取り組んでおり、頑張っていると評価できる。 集積の数字が前年より伸びたものの、目標1,000haに達成していないためBとする。</p>

A: 目標を達成している

B: 目標を概ね達成している

C: 目標どおり出来ていない